

牛の異常産疾病をワクチンで予防しましょう！

ヌカ力等の吸血昆虫が媒介することによって感染する牛の異常産疾病の代表的なものとして、以下の4疾病があります。

疾病名	症状			感染（抗体陽転）及び発生状況（※） (アカバネ、チュウザン、アイノ:R5、R6) (ピートン:H28~R6)
	流産 早産 死産	産子の 体形異常 又は麻痺や 運動失調等	生後感染に による麻痺や 運動失調等	
アカバネ病 (届出)	あり	あり	あり	R5:北海道で発生 R6:岡山、高知で感染
チュウザン病 (届出)	少ない	あり	なし	R5:愛媛、高知、佐賀、長崎、熊本、 宮崎、沖縄で感染 R6:熊本で発生 島根、香川、高知、愛媛、福岡、 熊本、沖縄で感染
アイノウイルス感染症 (届出)	あり	あり	なし	R6:福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、 宮崎、鹿児島、沖縄で感染
ピートンウイルスの感染	あり	あり	なし	H28:岡山県を含む中国地方 兵庫県で発生 R2:九州で発生

※「感染（抗体陽転）」とは、異常産を起こすウイルスが地域に侵入していることを示しており、注意が必要です。「発生」とは、異常産が実際に確認されたものです。

令和7年度は、岡山県内でアイノウイルスの抗体の陽転が確認されています。

- 気候の温暖化等により、吸血昆虫によるこれらの感染症の拡大が危惧されています。難産による母牛の損耗や、体形異常等による子牛の損失を防ぐためには、ワクチン接種を毎年継続することで免疫力を高めておくことが重要です。また、流行が確認されてからの接種では遅く、異常産を予防することはできません。
- ワクチンは、吸血昆虫が活発に活動を始める前の4~6月に、計画的に接種しましょう。
- ワクチンは継続して、毎年接種する必要があります。なお、不活化ワクチンは、毎年1回の接種を怠ると、初年度と同様に基礎免疫として2回の接種が必要となります。



牛異常産ワクチンについて



ワクチンの種類	対象の病気				用法（接種方法）
	アカバネ病	チュウザン病	アイノウイルス感染症	ピートンウイルスの感染	
アカバネ病生ワクチン	○	—	—	—	4～6月 毎年1回接種 毎年
アカバネ病不活化ワクチン ^(※)	○	—	—	—	4～6月 4週間隔 初年度は2回、その後は毎年1回接種。 毎年
牛異常産4種混合不活化ワクチン	○	○	○	○	4～6月 約1か月間隔 初年度は2回、その後は毎年1回接種。 毎年

※アカバネ病不活化ワクチンは、令和7年10月に販売開始。

【資料提供・文献】

岡山県・動物用ワクチン利用の手引き（牛用ワクチン編）：動物用ワクチン等保管協議会
ワクチン使用説明書

【予防接種の相談・申込】

ワクチンの詳細や接種料金については、（一社）岡山県畜産協会各支部又は診療獣医師（NOSAI家畜診療所、おからく生産支援課、開業獣医師）までお尋ねください。

岡山県畜産協会岡山支部
(岡山家畜保健衛生所内) TEL 086-724-3880

備中家畜診療所
(小田郡矢掛町東三成) TEL 0866-84-1400

岡山県畜産協会井笠支部
(井笠家畜保健衛生所内) TEL 0866-84-8221

備中家畜診療所備北出張所
(高梁市津川町) TEL 0866-22-2211

岡山県畜産協会高梁支部
(高梁家畜保健衛生所内) TEL 0866-22-2077

美作家畜診療所
(鏡野町沢田) TEL 0868-54-5081

岡山県畜産協会津山支部
(津山家畜保健衛生所内) TEL 0868-29-0040

美作家畜診療所蒜山出張所
(真庭市蒜山富山根) TEL 0867-66-2517

生産獣医療支援センター
(岡山市北区建部町) TEL 0867-22-1500

おからく生産支援課
(津山市川崎) TEL 0868-26-1106